



「ほっとルーム」だより

第194号 令和6年10月1日発行
いちき串木野市家庭教育支援連絡協議会
(子どもみらい課内 TEL 33-5618)

「意味を求めない会話」からはじめるふれあい方

思春期

私たち大人は、子どもに何か問題が起きた時、「きちんとした意味のある、目的を持った」話をしなければと思います。子どもの成長を期待し、成長を促す立場にあるのでそうした思いを抱くのは当然ですが、その思いが強すぎると互いの心を近づける「会話」ではなく、大人の目的だけでする「対話」になってしまうこともあります。それでは、安心も安らぎも感じられず、絆や信頼関係も築くことができないことになります。特に思春期は、子どもから大人へと自立していく、非常にデリケートな時期です。日常のたわいのない会話から心の変化に気づき、受け止められるように、普段の生活の中で意味を求める「会話」ではなく、意味を求めない「会話」を実践し、積み重ねていきましょう。

フツウの挨拶から 「おはよう」「お帰り」「おやすみなさい」

朝・昼・夜の挨拶は、子どもとの会話の基本です。いつでも、どこでも、どんなときでも話ができる家庭の空気をつくる最初の一步です。いくら声をかけても子供が返事をしない。それは親が自分の心をつつめる時間をもらっているのです。

感謝の言葉を口癖に 「ありがとう」

千の言葉より「ありがとう」の一言を。
「ありがとう」の一言は、子どもを大切に思っている気持ちを伝えられる最良の言葉です。子供にどう自分の気持ちを伝えたらいいか困惑しているとき、自分の心を振り返らせてくれる言葉です。

心をとく 「いいのよ。ここから始めれば」

いつでもやり直しができるという安心感を与えます。自信を失くし、不安から起こす子供の言動を非難し、過去に眼を向けさせるのではなく、不安で固まった心をほぐし、過去の過ちも糧にできるという希望を与え、心を未来へ向けさせることです。

～お知らせ～



家庭教育に関する
アンケートへの
ご協力をお願いします

意味を求めない会話術

尊重する 「あなたはどうしたいの？」

会話で大切なのは、子どもを尊重して、待つこと。子どもは自分の意志を断片的で、途切れがちにしか話せません。それを理解して、子どもの話を最後まで聴き届けてあげましょう。子どもを尊重するということは、待つことができるということです。

大人の物差しを使わない

物差しは一つではありません。世間の評価や大人が生きてきた価値観で子どもと話をしようとしても、子どもは心を閉じるだけです。子どもが望むのは、いろいろな生き方、考え方があっていいと認めてもらえることなのです。

実践編

「ごめんね」が 素直に言える自分になる

素直に詫言のここのできる心になれば、子どもは変わります。子どもの寂しかった気持ち、そうさせてしまっている、自分の心得違いに気づけば、大人の自分から「ごめんね」の言葉が出てきます。その姿を見て、子どもは変わっていくのです。

参考：秀嶋 賢人 著「思春期の心をつかむ会話術」

家庭教育支援事業の充実を図るべく、家庭教育や子育て支援について、保護者の皆様のお考えやご意見をお聞かせいただきたいと思います。

ご多用中とは存じますが、アンケート調査にご協力をお願い致します。

～ほっとルーム～
(子どもみらい課内)

子育ての中で、気になること等ありましたら、一人で悩まず、いつでも気軽にご相談ください。一緒に語りましょう。

TEL : 33-5654

FAX : 32-3124



2回目の長子家庭訪問が終わりました

家庭訪問では、それぞれのご家庭で、子どもに寄り添い、親子で頑張っている様子などをお聞きすることができました。夕方のお忙しい時間に訪問させていただいたご家庭もありましたが、お話しできたことを有難く思っております。お時間をいただきありがとうございました。

さわやか子育て支援センター（太陽保育園2F）

おじいちゃん おばあちゃんと遊ぼう

さわやか子育て支援センターでは、娘さんやお嫁さん、お孫さんが通っている子育て支援センターを知っていただくために、おばあちゃんたちに遊びに来てもらう催しを「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう」と題して、毎年計画されています。今年は9月14日（土）に、12人が参加していました。この日は、お孫さんたちとふれあうリズム運動、絵本の読み聞かせ、小豆遊びで楽しんでいました。特に小豆遊びでは、小豆の上に寝転んだり、手触りを楽しんだり、空き缶やろうと等を使って小豆を集めてはこぼしたりして、部屋は小豆が跳ねる心地よい音でいっぱいになりました。おばあちゃんたちは、一つ一つの遊びにも意味があることを聞きながら、お孫さんとふれあい、楽しい時間を過ごされている姿が印象的でした。

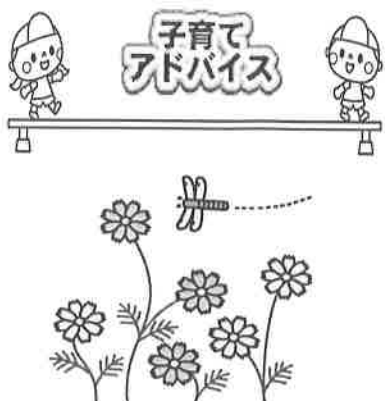
《参加者の声》



娘が情報を見つけて、支援センターを利用しています。娘が孫二人を愛情を持って子育てしているので嬉しいです。上の子が活発で物怖じしないので、下の子も真似をして、みんなのいる場に来て泣かずに活動できている様子を見られて良かった。

市外出身のお嫁さんが、コロナ禍の時期でも、安心して子育てができたのは、支援センターの先生方のおかげだと思います。

子どもたちの様子も見ることができて、楽しいです。かねても、家の方に遊びに来てくれるので幸せです。



子どもは自分の苦しみを直接語りはしませんが
苦しみが深い時には
必ずなんらかのシグナルを発信しているものです
早い時期にそのシグナルをとらえられれば
心の傷が深くないように
より早く
適切な対応ができるかもしれません

広木 克行著 「詩画集 子どもは紫の露草」より

県の相談機関

かごしま教育ホットライン24 ☎0120-783-574
☎099-294-2200※携帯電話からはこちら
24時間子どもSOSダイヤル ☎0120-0-78310
PTAすくすくライン(家庭教育やしつけについて) ☎099-251-0309